

平成31年度

社会情報学部小論文問題

(推薦入試)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子と解答用紙は以下のとおりです。
 - (1) 問題冊子・・・・・・・・・・5ページ
 - (2) 解答用紙・・・・・・・・・・2枚
 - (3) 下書用紙・・・・・・・・・・2枚
- 3 試験開始後、問題冊子及び解答用紙に、落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
- 4 解答は、指定の解答用紙に記入してください。
- 5 解答用紙の所定の欄に氏名と受験番号を必ず記入してください。
- 6 試験時間中、解答した解答用紙を脇に置く場合は、不正行為防止のため解答用紙を裏返して置いてください。
- 7 解答用紙はすべて回収します。問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の2つの問いに答えなさい。

人々が治安は悪化したと感じるようになったのは、マスコミによる犯罪報道が、現実の事件とは関係なく90年代に入って増加傾向にあること、しかも「凶悪」というキーワードが付される記事増加などによる影響が大きいことが関連していると言えよう。

また、犯罪報道の質と量の変化、特にユビキタス社会の影響も大きい。いつでもどこにいても、日本中で発生した犯罪情報が瞬時に受け手に届けられる。新聞やテレビニュースだけでなく、インターネットや携帯のメール配信による情報アクセスも少なくない。いわゆる不審者情報のメール配信に登録すると、サイトによっては居住地域を越えた事件でも、重大事件に関しては配信が行われる。

以前、昭和30年代の犯罪についての新聞記事を調べた報道関係者が、北海道で起きた通り魔事件が東京では新聞に載っていないことがあると教えてくれた。近年、私たちはまったく反対に、日本中で起こっている大量の犯罪情報にリアルタイムで接するようになったのである。

ところで、これはあまり知られていないことだが、少年非行の多くは、メディア、特にテレビ報道に触発されたものが少なくない。というのも、少年非行や逸脱行動の直接的な動機の一つが「目立ちたいから」という点にあるからである。

暴走族は、よく学校で落ちこぼれた劣等感を補償するために、自分を強く見せようとして、暴走行為に及んでいると解釈される。これはこれで無意識の動機の解釈としてまったく間違っているわけではないが、彼らの表面的な意識としては、暴走族集団が居心地が良く、格好良くて、目立つことができると思っているから加わって走っているのである。

したがって、暴走族による「富士山の初日の出暴走」にしろ、あるいは一部の若者が暴れている「荒れる成人式」にしろ、テレビカメラが控えていて全国に報道されるから、わざわざ集まるのであり、メディアがいっせいに無視すれば次第に人が集まらなくなるだろう。

殺人などの特殊な少年犯罪にも、まったく同じことが言える。1997年に発生した神戸の連続児童殺傷事件以降に起きた重大少年事件の加害少年の多くは、神戸

事件の加害者を意識し、矯正施設などで自分と「少年A」を比較するコメントをしていることが多い。また、事件直後には、事件に影響を受け動物虐待などを起こして施設に収容された非行少年も散見された。

思春期で精神的に不安定になっている少年の場合、メディアの報道に触発されて犯行に及ぶ者も少なくない。推理小説などで「コピーキャット犯罪」と言われているもので、少年による殺人や放火事件、犯罪行為ではないがいじめによる自殺などがある時期続けざまに発生するのは、メディアによる同種事案発掘の効果と、報道に触発された場合と、二つの可能性のどちらかであることが多いのだ。

以上からわかるように、治安悪化言説の広まりにマスコミが果たす役割は非常に大きい。アメリカの社会犯罪学者であるジョエル・ベスト（1999年）は、このマスコミによる犯罪不安の高まりを著書『ランダム・バイオレンス』（直訳すると無差別・暴力）の中で、次のように説明している。ランダム・バイオレンスに対する警鐘が鳴らされる場合には、ハイウェイでの無差別狙撃事件など特定の劇的な事件が、誇張された統計とともに報道され、暴力が社会に蔓延し始めているというメッセージが付け加えられることが多い。

つまり、特殊な事件は社会的な変容の一つの象徴であり、その背景にはモラルの低下など社会の質的な変化によって、社会全体で暴力がコントロールできなくなっているという主張がなされるのである。

この主張は、いつ誰が暴力の犠牲になるかわからないということを暗示し、すべての人がこの問題を自分のこととして考え、取り組む必要があるというメッセージを含んでいる。

日本では、以下のような現象を参照すると理解しやすい。

三菱自動車のリコール隠しが問題となった時には、日本中で三菱製の自動車が走行中に故障した事例が次々とメディアで報道され、シンドラ社のエレベーター事故が問題になれば、同社のエレベーター事故や故障が全国で話題となった。

いずれも、子どもの命が奪われる死亡事故に注目が集まり、関係した会社による事故探しがメディアによって行われ、次々と報道された。その結果、われわれは最近になってそうした事故が急増したという印象を持つようになる。また、こうした事故の原因として個人だけでなく、企業モラルの低下、拝金主義の蔓延が安易に叫

ばれる。

また、佐世保で小学生による同級生殺害事件が起きれば、非行の低年齢化が叫ばれ、学級崩壊が取り上げられ、この事件が社会全体、あるいは子どもたち全体が抱える問題の象徴的な事例として扱われる。そして、テレビや新聞等で法律家や精神科医などの識者が、「子どもの規範意識の低下」や「ネット社会がつくり出した心の闇」として騒ぎ立てる。

いずれの場合も、いくつかの特異な悲劇的な事件をきっかけに、メディアが同種の事案を全国から探して報道し、識者が社会の変質を憂えるコメントを示すという構図は同じである。

これらの事故や事件は、背景に構造的な問題があるにせよないにせよ、ある程度の原因が見出されるのは、その後の地道な調査結果によるもので、事故や事件から相当時間が経って判明することが多い。だがその頃には、マスコミの熱は冷めて、一部のドキュメンタリーを除いてほとんど報道されることはない。

このように現実の犯罪発生に関係なく、特異な事件をきっかけに人々のあいだで犯罪が増加し、治安が悪化しているという印象が広まり、犯罪不安が急速に高まっていくような現象は「モラル・パニック」と呼ばれている。

社会学者マーシャ・ジョーンズ（2000年）によると、モラル・パニックは社会の保守的な階層の中での、「社会が蝕まれている、社会的な秩序やモラルが崩壊しつつある。このまま放っておくととんでもないことになる。今すぐに手を打たなくては……」という危機感の高まりによって発生し、マスメディアの報道によってそれが市民に浸透していく。

…（中略）… マスコミの報道件数と特異な事件との関係にも表れているが、特異な重大事件が発生すると、マスコミはその事件だけでなく類似事件についても大量の報道を開始する。

そして、事件の加害者が少年であれば、少年の心の闇やモラルの低下が叫ばれ、外国人であれば日本が狙われているといった危機感が誇張されるなど、特定の事件を特異な事例としてではなく、社会全体の歪みの象徴として取り上げていく（前田雅英『日本の治安は再生できるか』、2003年を参照）。

しかし、犯罪不安が、集中砲火のような報道による一時的なパニックであれば、

それはモラル・パニックであり、気まぐれなマスコミの関心が移れば、騒ぎも次第に沈静化に向かうことが多い。昔、大騒ぎになったにもかかわらず、大きな事件を忘れていた人も多いと思う。つまり、マスコミが不安を煽ることである種のパニックは発生するが、パニックに実態がともなっていない場合には、時間経過とともに沈静化し、忘れられるのが常態なのである。

1980年代後半の日本でも、東京・埼玉の「連続少女誘拐殺人」や「女子高生コンクリート殺人事件」など猟奇的で陰惨な殺人事件が続き、その都度、マスコミは少年の変容やモラルの低下などに関連づけながら、一時的に大量の報道を行い、少年法適用年齢の引き下げなどの議論も行われたが、時間とともに沈静化し、次第に人々の脳裏から忘れ去られ、少年法改正など政治の動きはともなわなかった。

ところが、パニックに行政が対応して制度変更を行うと、パニックの原因となった問題は恒常的な問題と認識され、行政的な手当での対象となるため、社会問題そのものが固定化していくことになる。

ジョエル・ベストは、マスコミ報道によってつくられたモラル・パニックが、市民運動家（支援者等の「アドボケイト」と呼ばれる人々）、行政・政治家、専門家の参加によって、一過性のパニックとして終わらずに、新たな社会問題として制度に組み込まれ、恒久的な社会問題として定着していく過程を分析している。

彼は、これを「鉄の四重奏」（直訳すると鉄の四角形）と呼んでいる。

マスコミが問題を探し出して報道し、市民運動家が社会運動の中でこの問題を取り上げ、政府に対策を求め、行政・政治家がこれに対応して法律等を制定し、医学・法学・心理学などの分野の専門家が、学問的な権威としてこの問題を解釈するという一連の作業が、パニックを超えた恒久的な社会問題をつくり出すとベストは指摘している。

この視点は、治安悪化神話の成立を考える上で、非常に重要である。

浜井浩一・芹沢一也『犯罪不安社会 誰もが「不審者」？』2006年 光文社
(設問の都合上、表記を変えた箇所がある)

問1 下線部「マスコミ報道によってつくられたモラル・パニック」について、①「モラル・パニック」とはどのようなもので、②その成立にマスコミ報道はどのような役割を果たすというのか、本文から読み取ることができる範囲で簡潔にまとめよ。(400字程度)

問2 「モラル・パニック」は私たちの社会にどのような影響を与えると思われるか、本文を踏まえたうえで、あなた自身の考えを述べよ。(600字程度)